

Comment 1.



ロンドンに拠点に活動をしている演劇教師のドミニク・コレイです。演劇教育を通しての経験は、演劇実践者としての私を形成し、教育現場における演劇の重要性と、若者の人生に与えるプラスの影響について、多くのことを教えてくれました。私は演劇教師であることをたいへん誇りに思っています。なぜなら、演劇の様々なカリキュラムを組み合わせることで、若者が人前で心にうつたえかけるような話ができるようになったり、彼らが自信を構築したり、自分自身や自分に起きたことへの理解を深める際の助けとなれるからです。

また、登場人物、感情、自分のゴール、野心、モチベーション等について学ぶ上で大きな手助けとなります。

架空の世界で役を演じることで、自分自身について、そして自分をとりまく問題、状況さらには日常生活をする上で浮かび上がる感情について学ぶことができます。役を演じることはまた、教育現場において、他人とつながり、議論し、起きたことを冷静に見つめ、苦難から立ち直る力を引き出すのに役立ちます。

演劇は発見の場です。想像力をはたらかせ、他者とコミュニケーションを取り、オープンに自己表現し、工夫を凝らして個人として成長できる場所なのです。

演劇という科目は、若者の成長にとってただ重要というだけでなく、不可欠なものだと私は考えています。

Comment 2

私は幸運にも DICE のプロジェクトで、演劇に根差した独自の長い歴史を持つ日本という、美しく豊かな文化に恵まれた国に行くことができました。東京で観劇した歌舞伎に私はすっかり魅了されました。私は今でも学生に歌舞伎という大切な、エネルギー溢れる、創造的で豊かな輝かしい演劇の歴史について教える時には、あの日の感動について語っています。

日本に行く前、日本人は控え目で人と距離を置く、シャイな人たちだと思っていた。きっと感情を表に出すことは社会的に歓迎されていないのだろうと考えていたのです。しかしながら、そんな私の考えは全く間違っていたということが、日本についての初日からよくわかりました。日本は、豊かで興味深く、かつ文化的な社会史の基礎を築いている国であり、人々はとてもあたたかく、寛大で、新しいアイデアや新しいことに対してオープンです。短い時間とはいえ、そうした日本文化の中に身を置いたことはとても光栄なことですし、あの時の日本での経験は今の私を作っているといえ、あのときできた繋がりはきっと一生続いていくと思います。

日本の学生や先生と一緒に過ごした日々は忘れられません。言葉の壁もありましたし、教育現場に「演劇」という科目が日本にはありませんでしたから、学校教育に

おける「演劇」に対する理解を深めてもらう必要があると感じていました。私は演劇で使用する仮面の授業を行いました。仮面をつけることで、普段は自信のない人でも、役になりきって、役の感情を身体で表現することで自己表現ができるのではないかと考えたからです。

私はシンプルなトレッスルマスク（仮面）を持参することにしました。



(短いビデオ)<https://www.youtube.com/watch?v=349CvQdX5B4> トレッスルマスクの使い方

学生さんたちには様々なウォームアップや緊張をほぐすアクティビティに参加してもらい、その後、仮面をつけて、仮面の表す感情を身体で表現してもらいました。

とても面白かったのは、最初は非常に緊張していた学生さんが、仮面をつけることで、不安を払拭し、活き活きとした表現を始めたことです。仮面と、そして自らの感情と身体とつながることで、学生さんたちも、大人の参加者も、自信を持って表現している姿に、私はとても感動しました。



日本での経験を通して、演劇教育、そして教育科目としての「演劇」は日本の教育に必要なものであると確信しました。若い世代の人たちが演劇を通して創造力を發揮し、発見を重ねることは、とても大切なことです。